

劇団☆A.P.B-Tokyo

ほどかれて少女の髪にむすばれし
葬儀の花の花ことばかな

出演
高野美由紀
輝有子
松本旭平
多賀健祐
赤星満
飛室イヴ
ブイヤベース
満洲つば子
Lune Gliner
山田ホアニータ
樋口裕司
光永勇輝
奥井奈緒子
泉絳
堀内愛海
清水真由
土田ななみ
藤元志帆
岡本真奈
仙石沙水
MICH
ミカカ
ニイマリコ
雅勝
工藤武蔵
米栖隆文
たんぽぽおさむ
小松杏里
浅野伸幸

2023.
6.1 (THU)
18:30
2 (FRI)
13:00
18:30
3 (SAT)
13:00
18:30
4 (SUN)
13:00

劇場/
あうるすぽっと
(豊島区立舞台芸術交流センター)

チケット/
前売り 2,000円
学生 3,500円 (U-22)
当日 7,500円
(いずれも日時・全席指定)

チケット販売/
劇団☆A.P.B-Tokyo事務局
<https://www.apbtokyo.com>
Mail: apb-tokyo@h2.dion.ne.jp
イープラス
<http://eplus.jp>



寺山修司没後40年記念認定事業
寺山修司
高野美由紀 演出
智内兄助 作

劇団☆A・P・B-Tokyo Presents /vol.42

写真/山本淳

2023.
6.1 (THU)
18:30
2 (FRI)
13:00
18:30
3 (SAT)
13:00
18:30
4 (SUN)
13:00



劇場/
あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)
東京都豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル2F

- ・東京40口有楽町線「東池袋駅」
6・7番出口より直結
- ・JR池袋線「池袋駅」(東11)より
グリーン大通り直進徒歩10分
- ・都電荒川線「東池袋西1丁目」より徒歩2分

チケット/

前売り 7,000円
学生 3,500円(U-22)
当日 7,500円
(いずれも11時・全席指定)

チケット販売/

劇団☆A・P・B-Tokyo事務局
<https://www.apbtokyo.com>
Mail: apb-tokyo@h2.dion.ne.jp

イープラス

<http://eplus.jp>

スタッフ

作/寺山修司 演出/高野美由紀 画/智内兄助 音楽/高木尋士・三木健
照明/大野桃子 音響/角丸雄亮 ヘアメイク/一山あい子・村上渚・三宅由記
方言指導/高橋芳嘉 書体/小林幸子 動画撮影/FIP 舞台美術デザイン/浅野伸幸
舞台美術制作/紀和美建 振付/高野美由紀 舞台監督/森脇洋平 他

主催・制作/一般社団法人A・P・B Factory

協力/寺山ワールド/DISCOLOR Company/古本興業ホールディングス(株) Showtitle/
劇団ひまわり/劇団Lady Bird/劇団ワイスター/劇団紀和美建/劇団FIP 他

観劇の際には、以下の注意とルールをお守りくださいますよう、お願いいたします。
☆各公演実施前には、受付・客席・トイレなどお客様のお手に触れる場所については、
徹底的に消毒を実施しております。
☆劇場入場時には体温検査・アルコール消毒の実施をお願いすることがあります。
☆観劇日当日、37.5度以上の熱がある方、体調不良の方にはご入場をお断りしております。
☆劇場入場時には、連絡先記入をお願いすることがあります。
☆終演後の退場時の出待ちなどはご遠慮下さい。
本公演では新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底した上で、文化・芸術の維持と向上を目指した
公演にしたいと観望致します。皆様方のご協力・ご理解の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(次公演出演者・劇団員募集)
18歳以上の男性・女優・寺山修司作品・APB-Tokyoに興味があり活動したい方。舞台俳優として活躍したい方。経歴は問いません。
劇団☆A・P・B-Tokyo事務局/ apb-tokyo@h2.dion.ne.jp www.apbtokyo.comまで

ストーリー
父親のいない中学生の私(寺山修司)は、豊山の麓の村で母と二人で暮らしている。
唯一の楽しみといえば、イタコに父親の霊を呼び出させて会話をすることだった。
私の家の隣には他所から嫁入りした若い人妻が住んでおり、それが最中の人である。
ある日、村にやってくるカスヘ遊びに行った私は、村員から外の世界の事を聞かされ、怖れを抱くようになった。
今の生活に嫌気がさした私は家を出ることを決心し、
同じように生活が嫌になった隣の人妻と共に村を離れる約束をし家出を計画する。
ここまでは、演出家となった現在の私が制作した自伝舞台の一部である。
観劇に来ていた作家の先生に、「もし、君がタイムマシンに乗って数百年をさかのぼり、
君の三代前のおばあさんを殺したとしたら、現在の君はいなくなってしまうか?」と問われる。
やがて少年時代の自分自身に出会う。少年の頃の私は、自身の想像の中で脚色された少年・私自身であった。
現在の私は、過去の私(少年)に母親を殺せば
自分の未来が変わることを告げて、母のもとに向かう。
現在の私は20年前の母親と向き合い、母殺しを試そうとするが、
母の姿を見て、何も変えられない自分自身に気付く。
やがて時間が崩壊すると、そこは現在の都会の街角の中だった。
周囲を沢山の人間が行きかう中、私(寺山修司)と母は黙って食事を食べ続ける。



寺山修司没後40年記念認定事業
寺山修司
作